

## 日本文理大学 DX 推進計画

2021（令和3）年度に策定された日本文理大学 DX 計画を見直し、2023 年度から新たに「教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備」、「セキュリティへの対応」について方針を定め、ICT を利活用した質の高い教育を実現するための全学的な計画を策定する。

### 1. DX 基本方針

#### （1）ICT 環境の整備

- ア. 教育効果を高める環境整備の充実
- イ. 学修者本位の学修の実現及び効果的で質の高い学修の実現

#### （2）教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備

- ア. ICT を利活用した授業を実施するための支援、個別相談・指導、ヘルプデスクの設置
- イ. ICT を活用した教授法に対する技術面・教育面での支援体制の整備

#### （3）セキュリティへの対応

- ア. 本学が管理する情報資産を対象とする「日本文理大学セキュリティポリシー」の制定
- イ. 安全性を高める認証装置の整備と認証情報のルール策定

### 2. DX 年度計画

#### （1）ICT 環境の整備

- ア. 教育効果を高める環境の整備充実

##### 【2023（令和5）年～2024（令和6）度計画】

- ①学生満足度の向上を図るための新たな学習管理システム（学生支援トータルサポートシステム、教育支援トータルサポートシステム）導入の検討
- ②CAD1 教室では、CATIA をはじめ複数の CAD ソフトや GIS ソフトを導入し工学部専門科目の講義に使用している。この CAD1 教室のパソコン性能を強化することで、CAD 教育のみならず工学部専門科目の学習環境を大幅に改善する。併せて、各 PC 教室のネットワーク機器を更改し効果的な情報教育を推進する。
- ③現在 1Gbps の速度域を中心に組んでいる基幹ネットワーク装置を 10Gbps 以上対応に拡大する。併せて、まだ 100Mbps の速度域になっている箇所を 1Gbps に切り替えて行く。これによりネットワーク利用の大幅な効率化を実現する。

- イ. 学修者本位の教育の実現及び効果的で質の高い学修の実現

##### 【2023（令和5）～2024（令和6）年度計画】

- ①学生の学修成果を可視化するとともに、データをもとに習熟度別学習を実施、検証
- ②学生の学修状況及びその分析結果を教員等に対して可視化し、当該データに基づき、大学全体の教育課程の編成等における改善の検討を実施

- ③対面授業とオンライン学習の併用授業を設定し、教育効果の測定を行う。取組みの実施方法を検証し、学内への展開に向けた検討体制の構築。
- ④学修状況の分析結果をもとに、各取り組みに関してアウトプット指標とアウトカム指標を以下に設定し、目標を達成するように取組む。

**(2) 教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備**

- ア. ICT を利活用した授業を実施するための支援、個別相談・指導、ヘルプデスクの設置
- イ. ICT を活用した教授法に対する技術面・教育面での支援体制の確立

**【2023（令和5）～2024（令和6）年度計画】**

- ①2023（令和5）年10月より、「DX推進プロジェクト」を理事長室に設置し検討
- ②2024（令和6）年よりDX推進室（仮称）を設置し授業支援、個別相談体制、技術面・教育面での支援体制を整備

**(3) セキュリティへの対応**

- ア. 本学管理する情報資産を対象とする「日本文理大学セキュリティポリシー」の制定

**【2023（令和5）～2024（令和6）年度計画】**

- ①2023（令和5）年10月より、『DX推進プロジェクト』を理事長室に設置し検討
- ②2024（令和6）年よりDX推進室を設置しセキュリティポリシーの策定

- イ. 安全性を高める認証装置の整備と認証情報のルール策定

**【2023（令和5）～2024（令和6）年度計画】**

- ①複数の機器で実現しているユーザ認証のシステムを高度な装置に統合し、機器ごとに異なっていたセキュリティレベルの統一と一元管理を行う。
- ②簡易な状態になっているパスワードのレベルを上げセキュリティを強化する。

**3. 目標及び指標**

**(1) ICT 環境の整備**

ア. 教育効果を高める環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習管理システム（学生支援トータルサポートシステム、教育支援トータルサポートシステム）導入</li> <li>・教育環境における満足度調査、満足度の向上</li> </ul>
イ. 学修者本位の学修の実現及び効果的で質の高い学修の実現	<p>(アウトプット指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用したアクティブラーニング授業数の増加 →アクティブラーニング全授業の前年度比+5ポイント以上とする。</li> </ul> <p>(アウトカム指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の成績向上（GPA） →ICTを活用したアクティブラーニング科目 GPA を各年度平均以上（2.39）以上とする</li> </ul>

	※GPA2.39は2022年度全開講科目の科目GPAの平均
--	-------------------------------

(2) 教職員を対象とした技術支援・教育支援体制の整備

ア. ICT を利活用した授業を実施するための支援、個別相談・指導、ヘルプデスクの設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 活用授業数の増加</li> <li>・ 相談、支援に対する満足度</li> </ul>
イ. ICT を活用した教授法に対する技術面・教育面での支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 活用授業数の増加</li> <li>・ 相談、支援に対する満足度</li> </ul>

(3) セキュリティへの対応

ア. 本学が管理する情報資産を対象とする「日本文理大学セキュリティポリシー」の制定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セキュリティポリシー理解度と教職員への浸透率</li> </ul>
イ. 安全性を高める認証装置の整備と認証情報のルール策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備率とルールに対する教職員への浸透率</li> </ul>

4. 学内全体のDX推進に関わる管理体制の構築と運営

①DX推進計画

- ・ 本年度まで、計画の進捗をチェックする全学的な学内体制は、「大学評議会」とする。2024（令和6）年度からは、法人に「DX推進室（仮称）」が設置され、DX推進、管理を行う。

②学修者本位の学修の実現及び効果的で質の高い学修の実現の取組みに関わる評価体制について

- ・ 学修者本位の学修の実現及び効果的で質の高い学修の実現の取組みについては、「教育推進センター教育支援部門」が取組みの進捗を管理する。
- ・ 各取組みと指標の進捗については、教育推進センター教育支援部門で確認し、評価する。
- ・ 評価者については、教育推進センター教育支援部門に所属する教職員、学外の学識経験者及び産業界等に所属する者により構成する。

以上

## D Xによる教育の質的転換支援に係る取り組み状況（令和5年度）

### ○学修者本位の教育の実現及び効果的で質の高い学修の実現

#### 【2023（令和5）～2024（令和6）年度計画】

- ① 学生の学修成果を可視化するとともに、データをもとに習熟度別学習を実施、検証（取組 ア）
- ② 学生の学修状況及びその分析結果を教員等に対して可視化し、当該データに基づき、大学全体の教育課程の編成等における改善の検討を実施（取組 ア）
- ③ 対面授業とオンライン学習の併用授業を設定し、教育効果の測定を行う。取組みの実施方法を検証し、学内への展開に向けた検討体制の構築。（取組 イ）
- ④ 学修状況の分析結果をもとに、各取り組みに関してアウトプット指標とアウトカム指標を以下に設定し、目標を達成するように取り組む。（取組 ア・イ）

#### 【目標指標】

（アウトプット指標）

- ・ ICTを活用したアクティブラーニング授業数の増加  
→アクティブラーニング全授業の前年度比+5ポイント以上とする。

（アウトカム指標）

- ・ 学生の成績向上（GPA）  
→ICTを活用したアクティブラーニング科目GPAを各年度平均以上（2.39）以上とする  
※GPA2.39は2022年度全開講科目の科目GPAの平均

#### 【令和5年度の取り組み】

##### （ア）DXによる学修者本位の学修の実現

- ・ 1年次に対しては、成績・出欠管理のほか、全学生を対象に「PROG（コンピテンシーテスト）」「プレースメントテスト（国語・数学）」を入学直後に実施した。また、プレ・ディプロマサプリメントを後期開始時に配布した。
- ・ 各担任においては、1年「社会参画入門」においては全員面談、後期開始時には履修指導を行った。現状では必ずしもICTを活用してすべてが連動しておらず、全学生の履修指導の徹底とまでは言えないため、次年度に向けて引き続き検討を行った。

##### （イ）DXによる効果的で質の高い学修の実現

- ・ （ア）と連動し、学生の学修状況及びその分析結果を教員等に対して可視化し、当該データに基づき、大学全体の教育課程の編成等における改善の検討を教学マネジメント委員会で実施した。
- ・ 本年度学長裁量経費「令和5年度 教育・研究改革推進事業」において、坂井教授を

代表とする「初年次学習者中心の教育を実現する反転授業等のためのインストラクショナルデザイン（ID）理論を導入した教育手法の実証研究」を採択した。教育推進センター、リメディアル教員を中心として、組織的に行っており、これを中核的な取組として推進した。

- ・工学部1年「文章表現」（必修）を中心に対面授業とオンライン学習をAWS Moodleを活用しながら、授業外学修時間の向上、学修成果の向上を目指した。
- ・本年度はこの取組を中心に、成果を学内外に展開した。
  - ・令和6年2月28日：学内FD研修会にて報告
  - ・令和6年3月26日～令和6年4月30日：上記録画をオンデマンドにて、おおいた地域連携プラットフォーム加盟機関へ提供
- ・DXの取り組みを実施している授業の割合：0.6%（3科目/492科目）

以上